

地域学校協働活動推進委員会が実働組織として機能する 武並小学校運営協議会

1 学校規模等

- ・小学校 通常学級6、特別支援学級2、計8学級 全校児童147人
- ・現在ではJR中央線や国道19号線が通り、かつては旧中山道が通る山間の史跡豊かな地域に位置している。前身の学校開設から数え、150年の歴史をもつ学校である。地域の諸団体を巻き込みながらボランティア人材集めが行われ、学校及び子どもたちの支援のために、多様なボランティア活動が展開されている。

2 設置関係

- ・設置開始時期 学校運営協議会 令和元年度
地域学校協働活動推進委員会 令和3年度
 - ・行政機関部署 恵那市教育委員会 生涯学習課
 - ・学校運営協議会委員
 - 【地域】会長：学識経験者（1名）、副会長：自治連合会長（1名）
委員：学区内地区協議会長（2名）、公民館長（1名）、
主任児童委員（2名）、PTA会長（1名）、
放課後子ども教室コーディネーター（1名） （計 9名）
 - 【学校】副会長：校長 事務局：教頭、教務主任 （計 3名）
- 【総計12名】

3 当日の視察より

(1) 視察内容

- ・授業参観（5年家庭科 ミシン操作をボランティアさんがサポートする授業）
- ・運営協議会に関する説明（協議会長、校長）

(2) 授業参観より

- ・当日は8名のボランティアさんが参加。ほぼ60歳以上の女性が占める中に、5年生児童の保護者が1名おられた。その保護者の参加理由は、ご自身は裁縫が好きでミシンの扱いに慣れていること、わが子が在籍していることであった。他の方々も趣味で裁縫をされている方が多いとのこと。子どもたちは操作手順が分からなくなると、各班に配置されたボランティアさんに聞きながら、作業を進めていた。ボランティアさんの指導にも慣れている様子で、しっかりと目と耳で理解し、どの子も、きれいな直線縫いを完成させていた。



【家庭科ボランティア】

(3) 武並小学校運営協議会について

【協議会長より】現状の成果 (○)

- ・ボランティアの人集めは、電話で知り合いに打診することが多い。電話 19：チラシ1 が人材確保割合。
- ・算数、家庭科のボランティアの受付場所は校長室とし、校長先生とボランティアさんとの接点をつくるようにしている。読み聞かせは、会議室にて会長が対応している。ボランティアの多くは、60 歳以上の男女。



【きれいに整備された校庭の土手】

- 各委員が長を務める団体をはじめ、地区の諸団体が実働を担い、連携がとれている。
- 子どもたちが変わってきたかは分からないが、活動に携わることで、私たち大人が変わってきたと言えるのではないかと。ふだんから子ども、学校と関わることで、いっそう学校とともに武並の子どもたちを育てようという気持ちが強くなっている。

【校長より】 現状の成果 (○) と課題 (★)

- ・運営協議会は当初、夜に行っていたが、子どもたちの様子を参観していただく意味もあり、日中に変更して開催するようになっている。
- 子どもたちも大人に慣れ、違和感なく日常の活動が行えるようになってきている。
- 協議会および推進委員会、ボランティアさんのおかげで、子どもたちが育ち、教育環境が整備されているという実感がある。
- ★できることを無理なく続けていくことが大事である。
- ★これまで以上に活動の主体が学校でなく、地域になっていくことが肝要である。

4 年間計画概要

※運営協議会の議題 (R 5 の予定) も含む

| 事業等 | | 事業等 | |
|-----|---|-----|--|
| 4月 | 第1回運営協議会 経営方針の審議及び承認 年間計画 | 10月 | |
| 5月 | 見守りボランティアさん対面式 | 11月 | 第4回運営協議会 各行事の振り返り、ボランティア・運動会 見守りボランティアさん感謝の会 防災スクール2回目 |
| 6月 | 防災スクール1回目 | 12月 | |
| 7月 | 第2回運営協議会 重点施策や夏休み・防災の日・運動会等の確認 | 1月 | |
| 8月 | ラジオ体操(各地区にて) | 2月 | 第5回運営協議会 R5年度まとめ 次年度に向けて |
| 9月 | 第3回運営協議会 学校評価の結果 ラジオ体操・防災の日の振り返り ボランティア・運動会 | 3月 | |
| 随時 | 算数1, 2年(16) 家庭科5, 6年(8) 読み聞かせ(7) 草刈り・ペンキ塗り 登下校の安全見守り ()内回数 地域防災スクール 文化まつり他 放課後子ども教室(12) ふるさと学習 道笛づくり、花壇・畑づくり等 | | |

5 視察所感

運営方針を協議・決定していく学校運営協議会をベースに、実働組織である協働活動推進委員会がよく機能し、さまざまな活動が展開されている。特に運営協議会の委員や各種のボランティアさんは、学校や子どもたちの様子をつぶさに捉えることで、学校や子どもに対していっそう支援をしていこうという気概をもたれていると感じた。多様な支援を施したいのはやまやまであるが、無理なく長期にわたって支援を継続していくためには、活動を実施しながら、よりよい方法を常に模索していくことが必要であると感じた。